

キラリ! 地域おこし協力隊

遠野に移り住み活動する「地域おこし協力隊」の活動の様子や関連イベント情報などをお伝えします。



1_中澤さん。宮守川上流生産組合の田んぼを見学
2_トマトハウスを見学する中澤さん 3_相棒の「かっぱ」と一緒にSL銀河に乗車しました。かっぱを持っている私を見たら、気軽に声をかけてください!

Q 遠野に移住する前はどんなことをしていましたか?
大学時代は飲食店でアルバイト。卒業後は自販機メンテナンス会社に勤め、紙コップやパンの自販機のメンテナンスなどを行っていました。
カップが好きで、学生のときから遠野が大好きです。合宿での自動車免許取得を皮切りに、仕事をしながら遠野に通う生活を送り、

Q 遠野に来てからどんな活動をしていますか?
農と食をテーマにした商品開発と情報発信に向け、まずは遠野のことを知るために市内を案内してもらっています。所属先である農事組合法人宮守川上流生産組合では、ジュースやジャム作りなどを経験。農産物加工や農作業の勉強

中澤 風由子(ふうゆこ) 埼玉県出身・24歳(2020年10月着任)

「宮守町の幸を届けたい」

移住し、挑戦中!
中澤さんのプロジェクト
「特産品担当」
(商品開発・食品プロデューサー)

をしながら、一緒に作業をしています。同組合の田んぼを見学した時には、とてもきれいな景色で、大切に管理されていることが伝わってきました。トマト栽培用のハウスも見学。このトマトを使用したジュースは果汁100%で、トマトジュースが苦手な私でもおいしく飲めました。

Q 今後の目標を教えてください

宮守町を中心に、地域のことをもっとよく知り、今ある資源を活用しながら新しい発見を得ることができたらと思っています。現在は、インターネット上で商品を販売するECサイト開設にも挑戦。サイト作りは初めてで上手くいかないこともあります。勉強しながら挑戦を続けたいと思います。馬肉やワサビなど、地域外にはあまり知られていない上質な生産物や加工品をどう発信すればうまく伝えることができるのか。模索しながら、活動していきたいと考えています。

宮本隊員



つくる大学

宮本拓海隊員が運営に携わっている「つくる大学」は令和2年度、内閣府の関係人口創出・拡大のための提案型モデルの採択を受け、社会変化により新たに必要となった知識やスキルを互いに学び場の創出に取り組んでいます。



講座やイベント開催中!
詳しくは、つくる大学ホームページ(左記QRコード読み取り)

つくる大学運営事務局
Mail → tsukuru-univ@nextcommons.co.jp
HP → https://note.com/tsukuru-univ

遠野人

★筆者 佐藤 直紀(なおき)

遠野文化研究センター学芸員。1988年秋田県生まれ。埋蔵文化財や遠野遺産を担当。いろいろな汗をかきながら現場を奔走中。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。今回は、初開催となった遠野文化遺産セッションについてです。



今回の遠野遺産認定団体

1月22日、市民センター大ホールで「遠野文化遺産セッション」を開催し、市民約70人が参加しました。遠野には国、県、市指定文化財や遠野遺産など豊富な自然・文化遺産があり

ます。本イベントは、これらを保存・活用する取り組みの中から今年注目すべきトピックスをまとめて紹介し、地域づくりに結び付けていくきっかけになればと初めて企画したものです。

冒頭、「遠野物語ファンタジー」「鱒沢獅子踊り」「山口の水車小屋とこんびり」の3件が新たに遠野遺産に認定され、本町市長から認定証が交付されました。遠野遺産認定制度は、地域づくり団体などが推薦する遠野らしいもの市民の手で保護・活用される地域資源を次世代に守り伝えるために、遠野市の遺産として認定する仕組みです。平成19年度から始まった同遺産の認定件数は計161件にのぼります。今回は、「こんびり」という農作業の合間に食べる餅や団子などの粉食文化が初めて追加となり、遠野遺産の新たな時代の幕開けとなりました。



講演する広田岩手大学名誉教授

同日は、遠野遺産認定調査委員長を務める広田純一岩手大学名誉教授が「これからの地域づくりと文化遺産」と題して基調講演を行いました。広田教授は、「文化遺産は長い年月が作り出して

きた歴史的投資で、人間に喜びや感動を与えてくれるもの。遠野はそれを丹念に掘り起こしてきた」と評価しました。また、遺産で地域の活性化を図るためには「地域の小さなストーリーの発掘と編集」が大切と説

き、自身が大ファンだという人気番組「ブラタモリ」のような「問いかけ」と「謎解き」で、地域のストーリーを編んで発信してほしいと期待を込めました。

講演後は、土淵町山口の厚楽和孝自治会長が国選定重要文化的景観「遠野 土淵山口集落」での取り組みを紹介。同地区の女性グループ「おなごだちの会」が水車でひいた粉を使って郷土食「こんびり」を復活させたことや、地域整備チーム「山口普請組」が地域の案内板を設置したことなどを発表しました。

会場ロビーでは、文化財関係書籍販売遠野遺産パンフレットの無料配布国指定重文「千葉家住宅」大修理を紹介した映像や家財資料の展示今年度発掘調査した「安倍館跡」の出土遺物の速報展示なども実施。来場者の目を引いていました。



速報展示会の様子

後日、セッションの様子が新聞で紹介されると、他県の教育委員会から問い合わせが相次ぎ、遠野の人々が当たり前が続けてきたことは、全国から注目されるすごいことなんだ!と改めて実感しました。広田教授は講演の最後に、「縁あって暮らすことになった地域を大切に」と述べられました。秋田出身の私も、縁あって暮らす遠野を誇りに思い、これからも大切にしていきたいと考えています。

★今月のプレゼント

このコーナーへご意見・ご感想をお寄せいただいた人の中から抽選で3名様へ、遠野学叢書第15巻『遠野市の指定文化財』をプレゼントします。①お名前②ご住所③電話番号④感想一を添え、郵送、ファクス、メールのいずれかで下記まで送付ください。*締切2月28日(日)

